

## 草創期の娯楽施設

人の住むところ娯楽ありとはよくいったもんで、ニシン漁しかなかった留萌の草創期のころ、やっと市街が形成してくると、娯楽施設が市街にぼつりぼつりとしてき始めた。そして、明治四十三年に留萌築港が始まると町もだんだんにぎわいを見せてくる。この年に発行された天塩国要覧の中に

娯楽

従来の当町は万事素朴質潤なりしを以て未だ紹介するべきものなかりしが昨今各種戯場の設置さるゝもの頻々として雨後筍の観あり、曰く無弓軒の大弓、清泉館の球突場其他小規模の射的場三四箇所あり、是等は何れも当町這般の好況に伴いて新に設けられしものなるが在来のものでは演劇場亀本座ありて不断の興業

福士広志

海のふるさと館学芸係長

をなす。とある。

この頃の留萌は留萌く深川間の鉄道が開通し、念願の築港工事が開始され、また、大和田炭鉱からの出炭

た。中でも演劇場亀本座は明治三十六年頃亀本初太郎が創業し、旅役者の一行を迎えては田舎芝居を演じていた。この亀本座は南山手



劇場亀本座

が順調になり、今まさに新興の町として活気に溢れていた時である。人口も飛躍的に増えていった。こうした町には第三次産業である娯楽施設が進出してきてい

通り、今の北海道拓殖銀行留萌支店の通りにあった。この通りは明治二十四年の新市街化計画で「新廓」となり、その後旧市街にあった遊廓が移転し、新しい遊

廓が軒を並べていた通りでもある。その後明治四十年に南大通りに宮田兼道の「遊楽館」、明治四十四年に亀本座と同じ南山手通りに小坂藤蔵が「留萌座」を開業し、三館が競いあった。その他明治く大正時代にかけてあった娯楽場としては南大通りの美珠倶楽部、瀬越通りにあった弓場の無弓軒、球突場としては瀬越通りの対馬倶楽部、留萌通りの娯楽亭などがあった。この頃からビリヤードが町民の間で行われていたことには驚きをかくせない。また、弓場とは時代劇によくでてくる弓を射的にあてると景品のでるもので、的に当たると「大当たり！」と声がかかった。留萌には映画館の常設館も今はなくなってしまう。ただ、弓場の系列をひくパチンコのネオンだけは一際光を放ちつづけている。昔の人たちが見たらどう思うことであろう。